

第2回 “みんな・なが” ミーティングを開催しました！

地域が抱える課題が複雑化・多様化するなか、これからのまちづくりを考えていくには、行政だけでなく、地域づくり協議会や民間事業者、そして私たち地域住民が手を取り合い、共に支え合っていくことが大切です。

今年度第2回目となる今回は、「地域づくり協議会×事業者の協働から得られる『地域づくり』のヒント」をテーマに開催しました。各地域で身近な存在となっている「移動販売」を具体的なトピックに据え、ゲストスピーカーを交えてざっくばらんに意見を交わしました。

当日の様子

当日は、地域づくり協議会関係者や事業者、市職員など15名が参加しました。

グラウンドルールのもと、立場を越えてフラットに語り合い、移動販売の現場から見えてくるリアルな声や新しいアイデアを持ち寄りながら、あたたかく活発な対話の時間となりました。

みんな・ながミーティングの グラウンドルール

- ・フラットに意見交換しよう
- ・好奇心をもって人の話を聞こう
- ・聞くだけ参加もOK！



【移動販売の現状と、暮らしを支える価値】

- ・移動販売は、単なる買い物支援にとどまらず、**地域の不可欠なライフライン**として定着している。
- ・独居の方の「いつもと違う大量買い」や「ちょっとした異変」に、店員や周囲の住民が気づき、民生委員や福祉の窓口へとつながった地域での見守りの事例も共有された。

【高齢者向けから地域全体への広がり】

- ・「土曜日や夕方の運行地域では、子どもたちがアイス買いに来るなど、**多世代が集うコミュニティの拠点**になりつつある。
- ・夏休みに子どもたちが自分で買い物をしたり、スタンプカードを導入して地域づくり協議会のイベントと連動させたりするなど、子どもも含めた**地域全体の活性化につながる**ユニークなアイデアが紹介された。



【持続可能な地域と協働に向けて】

- ・移動販売は、単なる便利なサービスではなく、地域経済と暮らしの福祉を繋ぐ**大切なパートナーシップの形**である。
- ・悪天候時の中止情報が届きにくいデジタルデバイドの課題に対し、口コミや日常の声かけといった**アナログな見守りの地域ネットワークの重要性**を再確認した。
- ・既存商店との共存や、事業をずっと続けていくための工夫など、自分たちの将来の暮らしを守るために地域住民も「**当事者意識**」を持って関わっていくことの大切さが話し合われた。

気づき

今回のミーティングでは、市民と行政が立場を越えて話し合うことで、普段は見えにくい思いや背景を共有することができました。移動販売という身近なトピックから、見守りや多世代の交流、そして地域みんなで暮らしを支えていくためのヒントがたくさん見つかりました。